

## AIは、愛？

「うちは『スクラッチ』を使っている」「うちは『ビスケット』を使っているよ」という会話を耳にした時、私は、それは、「宝くじ」のことなの？「お菓子」のことなの？と誤ってしまいました。

2017年3月に改訂された小学校学習指導要領のその他重要事項に「プログラミング教育」が初めて記載されました。文部科学省によると「小学校におけるプログラミング教育については、コーディング（プログラミング言語を用いた記述方法）を覚えることがプログラミング教育の目的だと誤解されやすいが、子どもたちにコンピュータに意図した処理を行うように指示することができるという体験をさせながら、将来どのような職業に就くとしても、時代を超えて普遍的に求められる力としての『プログラミング的思考などを育成するもの』である」と解説されています。

一方、AI（Artificial Intelligence—人工知能）について、「AIの進歩で人間の仕事がなくなってしまう」「人間が、AIに支配される社会が来る」などの記事も最近目に付くようになりました。いつの間にか、電車の中では、スマホやタブレットに向かう人ばかりになっています。既に、コンピュータに支配されているようにも見える社会ができています。

急速に進化するAIやインターネット経由でもたらされる膨大な情報は、私たちの社会のあり様を大きく変えようとしているのです。この変化は、私たち人類を本当に幸せにしてくれるのでしょうか？

昨年、『プログラミング教育』の実践授業をある小学校で見させていただく機会がありました。子どもたちは、ゲーム感覚で、楽しそうにパソコンに向かっていきます。子どもたちは、目的の場所に行きつくように、「まっすぐすすむ」「右にまがる」「左へまがる」などの「意図した処理」を行います。コンピュータの中のロボットは、子どもたちの意図したように目的地に向かいます。でも、「ロボットが、目的地に着く」ことが学習の目的ではないのです。

しばらく見ていると、友だち同士で、一番の近道はどれだろう。一番の遠回りの道はどれだろうと話し合っているのです。隣の子のロボットが思うように動かない場合は、一緒に考えあっているのです。人間にしかできない大切なことは、「多様な他者と協働しながら学びあう」ということです。そして、AIのように効率的ではないかもしれませんが、「遠回りの道」など新たな価値を生み出していくことです。相手に勝ったり、選別したりすることだけを考えるのではなく、個々の人間の尊厳を大切に、相手を慈しむことを考え、学んでいって欲しいものです。

子どもたちが学ぶ「プログラミング的思考」の中で、他者への「愛」が育まれることを願っています。将来、子どもたちがどのような職業に就くにしても、AIに「あい（愛）」が必要だからです。（M. Y）